

## 受験は団体戦?!



初めまして。今年の4月からカイチ予備校で非常勤講師をさせていただいている蒔田莉奈です。中学2年生の頃から関目教室に通い始め、大学受験では、予備校にもお世話になりました。現在は、四條畷高校を卒業後、大阪府立大学地域保健学域で栄養学を専攻しています。

11月になり、受験も本格的に勝負の時期になってきました。今回は、私が大学受験を経て、感じたことについてお話ししようと思います。

大学受験や高校受験において、「受験は団体戦だ」と一度くらいは聞いたことがあるかと思いますが。この意見には賛否があり、1人で勉強した方が

良いと考える方もいるかと思いますが、私は「受験は団体戦だ」という意見に大学受験を終えて、とても納得しました。なぜなら、私は周りの沢山の人の協力や応援のもと、大学受験を終えることができた実感しているからです。さらに、私には強力なライバルであり、理解者である戦友がいました。私の大学受験は、この戦友のおかげで進むことができたと言っても過言ではありません。

私の本格的な受験勉強は、最初のコロナウイルスの感染拡大における高校の休校と共にスタートしました。高校の休校も間も無くして、受験勉強の基盤であった予備校もオンラインとなつてしまい、家で勉強するのが苦手な私は、途方に暮れるかと思われました。そこで、私の救世主となったのが、戦友でした。毎日のように家を行き来しては、日中は一緒に勉強、夜はそれぞれの家

で無言電話をつなぎながら勉強、と1人で集中できないくらい長い時間勉強に付き合ってくれました。さらに、英語のライティングの練習も兼ねて、LINEのメッセージは英語でやりとりしたり、分からないところはお互いに質問しあったりするなど工夫して協力しながら勉強を進めていきました。また、お互いに切磋琢磨しながら協力しただけではなく、それぞれの受験はとことん応援しまさに2人で戦っているという感覚でした。

ここで皆さんに伝えたいのは、私のように戦友を作って勉強することが最も良いということではありません。1人で戦う必要はないということです。もちろん、勉強するときは1人がいいというタイプの方もいるとは思いますが、進路や勉強について困ったり、躓いたりしたときは、周りの人に頼ってみてください。それは、友達でも、家族でも、カイチの先生方でも誰でもいいと思います。もちろん、私でも皆さんのお役に立てるよう、相談のりますので、いつでも気軽に話しかけてくださいね!

## 伊藤のちよっと イイ話

TEACHER'S VOICE 伊藤 嘉章(万緑会)

## 政治に関心を!



万緑会で教室長を拝命してからはや4年が経とうとしています。

既に小学受験クラスでは私立小学校の受験が終わり、近畿大学附属小学校や四天王寺小学校、帝塚山学院に香里ヌヴェール小学校、賢明小学校や四條畷学園小学校など多くの合格者が今年も出ました。今現在は附属特訓で親子揃って皆さん頑張っているところです。国立である附属天王寺小学校や同平野小学校は倍率が非常に高く、小学受験を指導して30年の山内先生が少人数で幼児たちに指導されています。今年も両校に多くの合格者を輩出できればと日々頑張っているところです。



▲小学受験クラスの授業の様子



▲中曽根康弘元首相

今月のグローイングが発刊される頃には既に結果が分かっていると思います。今回私が、取り上げるトピックは「政治」です。

ここで読むのをやめた方!もう少しお付き合い願います。私が、物心ついたころ、時の総理大臣は中曽根康弘首相でした。

「ロン」「ヤス」との愛称でお互いを呼び合うほどレーガン大統領と親密で、強固な日米関係を築き、「戦後政治の総決算」として国鉄・電電公社・専売

公社をそれぞれJR・NTT・JTに民営化した歴代在位数の長い首相の1人です。

首相在位期間1806日と戦後5位の長期政権となった要因は様々考えられますが、特に危機管理が優れていた点にあると思います。

そのことをよく示す事例が三原山の噴火です。昭和61年11月15日午後4時15分に山頂で噴火が開始、6日後の21日には地震とともに最大級の噴火がおこり、溶岩が集落にせまり、午後10時20分、全島避難が決定されました。該当町の対策本部から救援要請を受けた中曽根内閣は政治決断し、官邸主導で海上保安庁の巡視船8隻や海上自衛隊の護衛艦2隻も急遽派遣しました。

中には南極に向けて出港したばかりの南極観測艦しらせも救助に参加し、翌日の22日の5時10分には全島民及び観光客1万220人を救出しました。

1日も経たないうちに1万人もの人々を全島避難させ、死者を出さなかったのは、まさに中曽根内閣の未曾有の事件に対し、冷静かつ大胆に最大限の対処をしたからにほかなりません。

しかしながら、このような後世から高く評価される対応について、官邸横暴だとして当時は批判されました。国会でも激しく糾弾されています。

ここから私たちが学ぶべきことは、物事にはプラスの面とマイナスの面どちらもあつて、その中でどち

らの面を重用して判断するか、熟考して答えをだすこと。

そして、政治というのは私たちの身近に常にあるので、よりよい生活のために信頼できる国会議員を選び、優れた総理大臣になってもらうこと。

皆さんも18歳になれば選挙権が与えられます。一番近いのはカイチ予備校やエニグマの生徒さんでしょうか。

決して「投票しても変わらない」とか「選べる人がいない」とか言ってせっかくの権利を行使せず放棄しないでください。まだまだ皆さんにとって先のことですが、選挙に出る人がどんな人でどんなことをしてきたのか、情報リテラシーを高め、是非とも投票に行くようにしましょう!

そのためには、皆さんは常に日々起こる政治の出来事に関心を持つようにしましょう。そして、でき得るなら、自分ならどうするか考えてみてください。中学3年生になれば入試問題などで時事問題もできます。

万緑会の生徒たちにも言えることですが、文章から読み取れることはしっかり頭の中で想像してください。想像力の欠如は、思考能力を停止させ、物事を安直に捉え、適当な解答をすることにつながります。今考えている算数や国語の問題は必ず答えがありますが、三原山噴火のように正解のない問題が社会に出ればたくさんあります。

中曽根内閣のようにしっかりと対処できるよう常に自分で考えて想像し、行動できるようにしましょう。投票権を行使する前提として常日頃の政治問題に関心をもつことが皆さんにできる第一歩です。少しずつでいいのでニュースに着目しながらいろいろなることを考えてみてください。



▲投票で政治を変えよう!



▲三原山噴火



【本 部】  
城東区今福西2-1-8モデラトWASHIMI 201  
TEL.06-6939-0008

【今福教室】  
城東区今福西 2-9-20  
TEL.06-6934-4662  
【諸口教室】  
鶴見区諸口 4-14-9-1F  
TEL.06-6912-3984  
【今津教室】  
鶴見区今津南 1-6-2-1F  
TEL.06-6167-9722  
【高殿教室】  
城東区成育 5-22-10-2F  
TEL.06-6786-1008  
【エニグマ】  
中央区谷町 9-4-5-3F  
TEL.06-6777-1563

【今福第2教室】  
城東区今福西 2-16-8  
TEL.06-6931-2000  
【関目教室】  
城東区関目 4-6-17-2F・3F  
TEL.06-6934-8117  
【古市教室】  
城東区古市 3-21-8  
TEL.06-6931-0467  
【カイチ予備校】  
城東区今福西 1-10-17  
TEL.06-6935-2220  
【万緑会】  
天王寺区上本町 6-9-10-3F  
TEL.06-6772-5011



高木 秀章(塾長)

## 妹からの電話

「戦争で亡くなったおじいちゃんの記録が残ってて、資料を送ってもらってん。」

ある日、東京にいる妹から電話がありました。妹は漫画「ペリリュー」を読み、そういえばおじいさんもこの戦争で亡くなったことを思い出したのだそうです。そして、このペリリューを紹介したニュースで、著者が厚生労働省に問い合わせたエピソードを見て、自分も問い合わせをしたそうです。そこで陸軍の戦死者は戸籍のある都道府県の福祉部に資料があると教えてもらい、資料を探してもらったそうです。



細かい戦地の記述はたくさんありましたが、下記が資料から分かったことです。

- おじいさんは大正2年に(1913年)生まれた。生きていたら108歳
- 昭和8年(1933)20歳に徴兵制により服役
- 昭和10年(1935)22歳に徴兵が終了
- 昭和12年(1937)24歳の4月1日に長男が誕生
- この時、日中戦争が勃発
- 昭和13年(1938)25歳の10月15日に広州付近に向かう
- 昭和15年(1940)27歳の11月20日にマラリアに罹患
- 12月26日 日本への船に乗り帰還
- 昭和16年(1941)28歳の1月5日に広島宇品港に上陸
- この時、太平洋戦争勃発
- 昭和17年(1942)29歳の2月5日に次男(私の父健先生)誕生

ここで記録は切れていますが、日本は多くの人々を犠牲にしながら1945年の敗戦に向けて戦争を続けます。おじいさんは、昭和19年(1944)西部ニューギニアで享年31歳で亡くなっています。私の父が2歳の時です。

このように時系列で並べると、20代の若者がいかに過酷な人生を生きたのかが分かります。20歳で徴兵訓練を受け、生まれたての我が子と新婚のおばあちゃんを置いて、中国の戦地に。そこでマラリアにかかり帰

国し、その僅か1~2年で次男の私の父が誕生。きつこの時期が人生で唯一おじいさんが家族みんなとゆっくり過ごせた時間になったのでしょうか。そして、その後、西部ニューギニアへ。漫画での多くの人々がそうであったように、家族を思いながら、飢えといつ殺されるかわからない絶望的な状況の中、家族を思い過ごしたのでしょう。「ペリリュー」の中でも、戦地の仲間に自分の奥さんの写真は絶対に見せないというシーンがあります。極限状態の中で、大切な人を大切に思う。その時間だけが唯一安らげる神聖な時間だったのかもしれない。そういえば、おばあさんもおじいさんの唯一の写真と言って、出征時の軍服姿の写真を大切にしていました。

人生で最も幸せな時期に、家族と離れ日本から遠い場所で亡くなったおじいさんはどんな気持ちだったでしょう。戦後の荒波の中、2人の子供を女手一つで育てたおばあさんはどれだけの苦難を乗り越えて生きたのでしょうか。

この時代は確実に存在した。本でもなくテレビでもなく、国に残された読みにくい資料がそのリアルを語っています。

資料と共に、厚生労働省からのDNA鑑定の手紙「戦没者遺骨をご遺族のもとへ」が同封されていました。国は様々な地域で亡くなっている戦没者の遺骨を調査隊が発掘し遺族のもとに返そうと活動しているのだそうです。遺族の口の中の中の粘膜をキットで取り送るとDNA照合し、合致した遺骨がある場合、遺族に送ってくれるそうです。おばあさんが「骨も拾ってあげられなかった」と話していましたが、お墓と一緒に入れるかもしれません。もし、DNAが合致する遺骨が見つからなくても発掘作業は随時進んでいるので、後日見つかるということもあるそうです。国のチカラはすごい。

このDNA照合。自分の親のDNAは父・母双方から引き継いでいるのですが、一世代前のおじいさんとなると、孫でも同性、今回の場合、男の孫だけがDNA鑑定の対象となるそうです。つまり、DNAを提供できるのは私だけなのだそうです。おかしなことに聞こえるかもしれませんが、この話を聞いて、改めて「あー自分とおじいさんは繋がっているのだな。」と実感しました。

おじいさんが、必死にバトンを繋いでくれたから自分は生きている。そしておじいさんの一部が自分の中に残っている。

もし、おじいさんがマラリアにかからなければ、私の父の健先生は生まれず、私たちが家族もこの世に存在していなかった。そういう、偶然というか、紙一重の中で、今の自分が存在し、構成されている。

私も、皆さんも、何世代にもわたる祖先の人達の「懸命に生きた証」として今を奇跡的に生きている。そのように考えた時、今の自分を無駄にしていけないな、今ここを自分も懸命に生きなければならぬなと思いました。それにしても、妹の行動力には脱帽です。

## カイチからのお知らせ

■11月上旬より期末模擬テストを各教室で実施します。 ■11月14日(日)は中学3年生対象の五ツ木模試が実施されます。 ■11月29日(月)・12月2日(木)は小学部の診断テストの予定です。 ■12月2週目より珠算競技大会を実施します。代表に選ばれたみんなは教室の代表としてがんばってください。 ■受験生にとって大切なテストが続く中、コロナウイルス患者数の増加が心配です。マスクに手洗い、うがいを徹底していきましょう。インフルエンザ予防接種も忘れずに。 <受験生を持つ保護者の皆様へ>11月はテストが続き、精神的に不安定になる生徒達も出てくる時期です。心配やご相談がある時は、遠慮なく各教室にご相談ください。

# Focus

## CLASSROOM REPORT 教室レポート



### 自分が通いたかった 予備校を目指して!

福井 幸司 (カイチ予備校)

大学入試が始まっています。もうすでに第1志望校に合格し、卒業した生徒もいます。

高2生は大学入試に向けて「受験モード」に入りました。教室長との面談で受験のための学習計画を立てています。入試で数学が必要な生徒については、伝統(?)の「厳選150題」に取り組んでもらっています。これは数学I・A・II・B(こんなにあるんですよ)の基礎を固めるための問題を集めた冊子です。これをそれぞれの目標に合わせて期日を決めて「やりきり課題」としています。ちなみに国公立大学志望者は2月末、すなわち予備校で高3生として扱われる前までにあります。

なぜ「数学I A II B」の基礎固めを急がなくてはならないのかというと、高3になると理系志望者は「数学III」の学習が中心となり、理科の学習にも時間が奪われるからです。また文系志望者は社会の負担が大きくなり、国公立大学に挑戦する場合は「理科の仕上げを早くすること」が意外とカギを握っているからなのです。

ところで、大学入試では「数学は選択科目」と聞くと驚きますか?

数学がまったくできなくても有名大学に入学することができるって知って、もしかすると喜んで

人もいるかもしれませんね。しかし「数学ができない」ということは選択の幅を極端に狭めることとなります。もちろん私立大学の文系学部(文学部や法学部など)を目指す人にとっては問題ありません。しかし理系学部をあきらめなければならぬことは当然として、国公立大学は学部を問わずほぼ受験できなくなります。

それでいて高校入学後に困る科目ランキングがあるとすれば、おそらく数学はトップを争います。なぜなら学習する分量が圧倒的に多く、その分授業進度も恐ろしく速いからです。それどころか文理学科ならば「ここは自分でやっといてね」で飛ばされる項目もあります。実際に「飛ばされた項目の補習をやってください」と泣きついてくることもあります。

私は中学生の頃は数学が(かなり)得意でしたが、高校(高津高校です)入学後は、すぐに難易度と授業スピードと課題の量の多さに呆然となりました。課題をこなすために参考書を調べまくって似ている問題を探し、その解法を理解してからやっと課題の問題に取り組めるようになります。1問を解くために数時間費やすことも珍しくありませんでした。当時は「なぜ高1からこんな無茶をさせるのか?」と思っていましたが、大学受験を終えてから振り返ると、これくらいのペースでいかないと国公立大学に合格することはできないということが理解できます。

ここで訴えたいことは「質問ができる環境を持つことが重要である」ということです。

カイチ予備校には大学生チューターに質問できる自習室があります。これは他の予備校や塾にもあるでしょう。しかし、カイチ予備校にはある特長があります。

それはクラス指導ができるように訓練され、それが認められた「クラス指導ができる」大学生チューターがいることです。

高校数学のクラス指導は「学年ごとに分ければOK」というわけにはいきません。学校によって進み方が違うので、同じ学年なのに習っていることが全然違うということがいきなり発生することが全然違うということがいきなり発生します。文理学科ならば高1の2学期で「数学I」を終え、「数学II」に入ります。このように単純に学年別に講座設定ができない問題を解消するために、クラス指導ができる大学生チューターがカイチ予備校を陰で支えています。

必ずプラスになると自信のある自習室です。個別指導担当の大学生チューターも入り、数学だけでなく理科(物理・化学・生物)の質問にも対応しています。私は自身の高校生生の頃を思い出し、生徒達がとても羨ましいです。こんな自習室を利用できたのなら、学習効率が格段にアップでき、2ランク上の大学でも合格できたと思います。

もっと多くの高校生に通ってもらえる予備校に成長できるよう、スタッフ全員で力を合わせて指導に当たっていきます。



# Education

## KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



### 入試制度のおさらいと 入試に対して私が大切に思うこと

岡本 泰行 (高殿教室)

日一日と寒さがつりありますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。もうそろそろこたつでずっと寝たい...と思いますが、入試です。中学3年生はとても大切な時期に差し掛かります。高校入試がすべてとは言いませんが高校入試で人生が変わると言ってもいいかと思えます。それは、合格不合格という結果ではなく(全員合格をさせないといけません)、入試という、自分の人生を切り拓いていくという大きなイベントに対して、どう取り組めたのかで人生は変わると思います。

それでは簡単ですが、入試の説明をします。(中学2年生以下の人達も覚えておいてください)

令和4年度の入試は  
・2月10日(木) 私立高校入試  
・2月17日(木)・18日(金) 公立高校特別選抜  
・3月9日(水) 公立高校一般入試

とテストの日程があります。私立専願(公立は受験しない)の子は私立高校合格で終わりとなります。私立併願(私立・公立両方受験する)の子たちが特別選抜・一般入試を受験します。体育科などの芸術系のコースが特別選抜にあたり、文理学科・英語科・普通科などが一般入試となります。ほとんどの子達がこの一般入試になるかと思えます。



▲みんなが受験する五ツ木模試の成績表です

入試は2月・3月なのですが、実際入試は秋から始まっています。これは中学2年生以下の人達は知っておきたいのですが、私立高校の入試は2月10日です。しかし、受験校を決定するのはほとんどの場合12月です。ということは、12月時点の自分の学力である程度の高校選抜がされるということです。ということは12月の学力を計るのは秋(10月11月)に受ける模擬テストや学校の実力テストで自分の学力を計ることになります。だから入試は秋から始まっています。ただ、秋のテストは範囲が定期テストのように決まっているわけではありません。ということはテストに向けて春から勉強をしておかないといけません。1年という長いスパンの戦いになります。

次に内申点について  
公立高校を入試する子達にとって内申点は非

常に大切です。

内申点の計算方法ですが中学1年・中学2年の内申点を×2、中学3年生の内申点を×6をした3学年合計が内申点になります。

1年の通知表の合計45 (9教科オール5の場合)	×2 =90	各学年の合計 450点
2年の通知表の合計45 (9教科オール5の場合)	×2 =90	
3年の通知表の合計45 (9教科オール5の場合)	×6 =270	

高校入試は当日点(テスト)450点、内申点450点の計900点満点になります。(高校によって、当日点と内申点の割合が5:5ではなく、文理学科設置校などは7:3、旭高校などは6:4など割合が違います)

入試制度は簡単に上げると上述のようになります。

それでは、入試に向けて私が思う大切なことは

1. 目標を持つこと

2. 集中力

1. 目標を持つことに関して

これは教室でよく言っていることなのですが、「70点を取った。これは良い点?悪い点?」目標を70点にしていた子は良い点です。ただ、目標を95点にしていた子はそうではないですね。このように目標があるかないかで同じ点数でも意味が違います。

テスト前に何点取りたい?と自分に問うてみてください。100点、80点などいろいろあると思います。

次に、何点とったとしても特に怒られたり、席替えで前の座席になったり、居残りしたりしないなど。となったときに何点と答えますか。60点、70点などと先ほどより点数が下がったかもしれません。それが自分自身です。

最初に答えた目標(理想)があり、頭の中ではそうなる自分、そうなりたい自分というのを意識しています。ただ、目に見えない壁(「ま、いっか」や「遊びたい」)がその理想になかなか近づくことを許してくれません。

この理想と現実の差をしっかりと埋めましょう。そのために

①そつなく取り組むこと

テストや問題を解く。間違い直しをきっちりする。(先生が飛ばしてもよいといった問題などは省く)そして、解いた問題はもう一度解き直しをする。というようなことを「か

ならず」行うことができるか。

②自分を疑うこと

常に、大丈夫かな。しっかりと覚えられているかなと自分自身を疑うこと。不安になるからもう一度覚え直したり、解き直したりと抜け目のない勉強ができます。

③先のことを考えないこと

たまに、勉強をして、高校入って大人になって...と先のことを考えてブルーになってしまう時があります。結論から言いますと「先のことはわからない」です。ただ、言うことは大きくなった時に「今やっていることの意味が分かります」これは皆さんの先輩方がGROWINGでよく書いてくれていると思います。今は大学で〇〇だけど中学生の時は△△で~のような。また、一番始めにも書きましたがこの入試という人生の大きなイベントに対して、どう取り組んだのかはこの先の人生を大きく変えます。

いろいろ書きましたが、それらを実行するために必要な力として

2. 集中力が必要です

すぐに自分自身を勉強モードに切り替えて集中することができたり、集中しながら自習を長時間取り組めたりすることは一つの能力だと思います。入試前になると時間がなく、焦ってきます。そういった中で、落ち着いて勉強できる。そういった状況を自分自身で作れる力は非常に大切なものです。



▲集中!!

最後にこのGROWINGを書きながらチューターで来ている大学生の子に聞きました。私「入試で大切なことって何?」チューター「あきらめないことです」入試の日の朝まで成績は伸びます。



▲合格を勝ち取るぞ~



▼卒業生も応援に来てくれました! 高殿1期生達